



●デジタル色彩のことはじめ

8月20日発行の「色彩学(第3巻, 第3号)」内の特集である「Welcome to the World of Color Science: 色彩学の体験授業・導入教育事例」において、コンピュータにおける色彩導入について書かせて頂きました。

内容は、主査が所属している木更津高専情報工学科のコンピュータ導入科目内の「グラデーション制作」「配色イメージ制作」「ドットロゴ制作」のコンテンツ紹介となり、コンピュータにおけるカラーシステム、およびコンピュータにおけるデータ量の単位である「ビット」「バイト」の理解に繋がります。

すでに小学校では、コンピュータを用いた授業が展開中で、色彩教材研究会においても、アナログの色彩教材研究は継続しつつ、デジタルにも目を向ける必要があると考えております。個人的にはデジタル色彩に関する制作から色彩教材研究に落とし込んでみたいと考えています。色彩をきっかけとして「コンピュータに慣れる」→「デジタルに慣れる」→「理系の苦手意識が自然と消える」。そんな空気感を作れたらと考えています。特集「色彩学の体験授業・導入教育事例」をご覧ください。
<https://color-science.jp/bulletin/>

(吉澤陽介 主査より:010)

●色彩教材の共同制作の提案

色彩教材研究会で色彩教材とその周辺に関する材料を研究会員の有志がメンバーを作って共同で考案し、研究会の会員が使えるような活動を初めて見ませんか？。

こんな教材ができたなら使ってみたいというご意見があれば、永田宛に提案してください。幹事会に検討をお願いします。

色彩学の基礎知識を伝える教材は、数多く存在しますが、「配色」を教える教材は多くはありませんし、対象は無限にあります。

一番簡単な二色配色の数は無限大であり、その評価も無限大であり、単純な教材の範囲を逸脱しています。

故に簡単な方法から模索します。2色の色紙を切って並べ、評価することが第一歩です。どんな色票集や色表示を用いるかが問われます。また、授業のためにパワーポイントのような電子データ化も求められます。

配色は、服装のような対象と、良否の判断基準が最初に求められ、後者はSD法や多数決などを採用するのが早道でしょう。

配色を授業に取り入れている方は、是非、要点をご指摘してください。また、研究会や学会での発表もご考慮ください。

(永田泰弘)

●私の配色の色彩教材の実施例

10年以上前に私が試みた二例の配色教材について紹介します。

「スリーテースト配色法」と名付けた、16名のパーソナルカラリスト対象の講座です。

女性のジャケット・インナー・スカートの線図を示し、PCCS色票の色から3色を選び、カラーデザインを各自が行い、作品を提示します。16点の配色に対し参加者の16名が、上位の半数を選んで残す投票を繰り返して、最優秀のカラーデザインを選ぶトーナメント方式で評価をしました。

二例目は、上記と同じデザイン図を用い、プロセス印刷に用いる純色のMYカラーチャート・CYカラーチャート・CMカラーチャートの計432色の色票を使った教材を作成し、授業で使いました。

印刷用のカラーチャートを使用したのは、印刷原稿が作りやすく、パソコンでも色の指定がやりやすいためです。

私は、色彩教材を作成するために、複数の自分用色票集を自作して使っていました。色彩教材を作る場合に大変役に立ちます。

研究会員のために、希望者に提供しても構いません。ご来宅ください。

(永田泰弘)